

自己評価報告書(最終報告)

報告者

特別支援教育専攻
／大谷 博俊

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

1. 目標・計画

授業研究(改善)のための授業の「観察」においては、初任者は一視点(例えば、児童生徒の反応)しか見て取ることができないといわれている。このことは、これまでの演習で認められた学生の視点も、同様である場合が多かった。本年度は、知的障害教育に関する授業において、このような単一の視点から、“教授行為と児童生徒の反応”といった、視点の「関連」づけが身に付くような授業を計画してみたい。

2. 点検・評価

知的障害教育に関する授業において、計6回の実践的な模擬授業を用いた演習を行った。模擬授業を行う際には、授業ごとに、授業案に示された目標と設定された学習活動との関連を詳細に解説し、授業の参観に臨むように指導した。模擬授業ごとに課したレポートを分析すると、初期には教材のみ、児童生徒の行動のみに囚われている学生が多かったが、終盤では指導者の教材を用いた働きかけと児童生徒の反応との関わりが捉えられるようになった学生が増えている。今後は、学生自身が、授業を捉える視点の変化に気づくような省察のあり方を検討していく必要があると考えている。

II. 分野別

II-1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

授業においては、出席端末の使用が効果的であったので、昨年度に引き続き学生の出席管理を行いたい。また学生への卒業論文の指導を充実させるために、学外の専門家との連携を行いたい。

2. 点検・評価

教員採用試験のために、特別支援教育専修学生からの依頼を受け、模擬面接を行った。また特別支援教育専修学生及び特別支援教育専修院生からの依頼を受け、小論文等の添削指導を行った。その結果、3名が教員採用1次試験に合格し、そのうち1名が2次試験にも合格した。

卒業論文・修士論文の作成に関わって、学生・院生の希望を叶えるために、徳島県内の特別支援学校、中学校及び近畿圏の特別支援学校に研究協力の依頼を行った。その結果、研究のためのフィールドを確保することができ、卒業論文としてまとめることができた。また卒業論文・修士論文のレベルアップのために、現職教員のための研究会での発表を企画し、学生自身が参加者から多くの助言を得ることができた。修士論文についても順調に指導を進めることができています。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

特別支援教育の実践的課題である進路指導に視点をあて、知的障害教育における進路指導及びキャリア教育について研究を進めていきたい。

2. 点検・評価

科学研究費補助事業の助成を受け、特別支援学校における進路指導困難生徒の調査研究を行った。平成23年度は、特別支援学校高等部教員へのアンケート調査、進路指導担当教員への聞き取り調査を行った。その結果、進路指導困難生徒の特徴的な実態を明らかにすることができた。またこれらの結果を、徳島県の進路指導担当者連絡協議会で共有し、出席者と共に分析を進めることができ、特別支援学校間の連携の強化にもつなげることができた。今後は、これらの研究結果を特別支援教育に関連のある学会で発表する予定であり、現在、その準備を進めている。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

基礎・臨床系教育部の構成員として部会議に出席すると共に、各種委員として大学の運営に貢献したいと考えている。

2. 点検・評価

学校教育学部入試委員として、全委員会に出席し、また大学入試センター試験等の諸入試関連業務を担ってきた。また入学者選抜方法専門部会委員として、「入学者選抜に関する追跡調査」の作成にあたり、「平成23年度入学生に対するアンケート調査」を分担執筆した。

Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

特別支援学校教員との実践に関する協議・検討等の情報交換を活発に行いたい。特に研究領域として関心のある後期中等教育段階にある障害児の進路指導に視点をあて、連携することができればと考えている。

2. 点検・評価

鳴門教育大学附属特別支援学校との共同研究として行っている「レインボーサポートプロジェクト」では、15回以上の会議を行い、協議を重ねてきた。その結果、附属特別支援学校において、初めて、企業関係者を集めての研修会を開催することができた。そして、「レインボーサポートプロジェクト」については、鳴門教育大学と鳴門教育大学附属特別支援学校との共同研究の成果として、第19回職業リハビリテーション研究発表会において発表した。また平成23年度鳴門教育大学附属特別支援学校研究発表会において、高等部の研究に対する助言を行った。

地域への貢献については、次のような活動を積極的に行ってきた。1)平成23年度徳島県特別支援教育学会における徳島県立盲学校の研究に対する助言、2)徳島県立阿南支援学校の平成23年度学校評議員、3)文部科学省による平成23年度特別支援教育総合推進事業に伴う徳島県立阿南支援学校への助言、4)徳島県特別支援学校進路指導担当者連絡協議会での助言、5)平成23年度徳島県発達障害者支援体制整備検討委員会委員

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)